



裁判員制度の 問題点を訴え

仙台で集会

裁判員制度に反対する弁護士や市民が3日、仙台市青葉区の仙台弁護士会館で「裁判員制度にとどめを！全国一斉行動・仙台」と題した集会を開き、制度の問題点を訴えた。

市民約50人が参加。東京弁護士会の高山俊吉弁護士が「裁判員制度の現実と制度の終焉（しゅうえん）」と題して講演。

裁判員制度の問題点を訴えた集会

高山弁護士は、対象事件の起訴数に対して裁判の実施件数が著しく少ないことや、選任手続きを辞退する人が多いことなどを紹介。「市民参加がいくつものことに叫ばれているが、国家権力に抵抗する市民参加でなければ、ファシズムにつながってしまう」と語った。

参加者は集会終了後、仙台弁護士会から市役所前まで、制度の廃止を求めデモ行進した。